



村上栄二の連載

ここだけの話

村上栄二のここだけの話

一級建築士問題

一級建築士を取り巻く現実と課題

・一級建築士の資格を取得するのに、1次で学科試験、平均合格率が18%、そして2次の製図に関しては、ここからさらに39%まで狭められ、合格率自体が10%にも達しないのが過去11年の状況。

・専門学校によると、年間1,000時間を超える学習時間がこの資格を取得するのに必要ではないかと言われている。さらに、その専門学校に行ったとしても、約150万必要。公務員の年間業務時間2000時間でどう対応するのか？

県職員で一級建築士居なければどうなる？

・豪雨災害など頻発し、公共施設更新・修繕などが増え、民間施設も老朽化による大きく動き始める中で喫緊の課題となる。

・一級建築士の資格がなければ、営繕課で工事監理を担う、特に主任監督員となるグループリーダー以上の職員の職種的な履行が難しく、建築主事にもなれない。建築確認あるいは建築許可、あるいは建築基準法に基づく指導など、資格を必要とする事務が出来ず、建設事務所の建築課長、あるいは建築課のグループリーダー以上の職員もなれない。【民間企業と対等かつ指導する事が難しくなる】

現状と対策

・毎年10人程度受けて2人合格している。

・公務員は職務を遂行する能力に応じる職能給である。職務の難易度や責任の度合いに応じて支払う職務給制度ではない。資格の取得に対して昇給や昇進は難しいので、賞と支払いなどを含めて、インセンティブを考えるべきではないか？

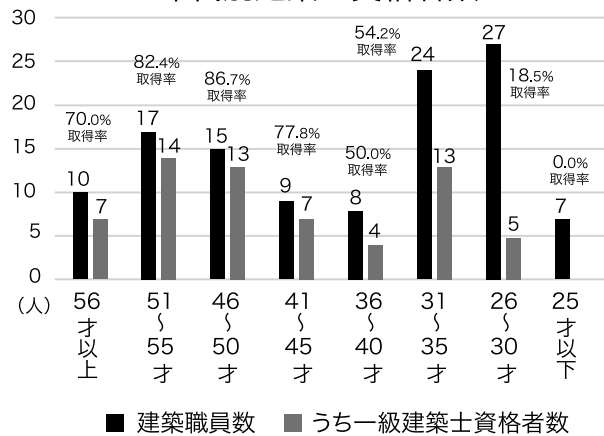
・専門学校に行く費用の奨学金制度など設けてはどうか？

・3Dプリンター建築研究やストローベイルハウス(藁と土の圧縮)研究を、広島県で先進的に官民連携で取組むべきではないか？

広島県建築職員一級建築士の資格者数の年代比率

・41歳以上では7割から8割程度と高い一方で、30代では5割程度に下がっている。さらに、26歳から30歳までは18.5%。

年代別建築士資格者数



56歳以上職員数10人に対して一級建築士の資格を持つ人は7人

51歳から55歳 職員数17人に対して資格者は14人

45歳から50歳の職員数15人に対して資格者は13人

41歳から45歳では職員数9人に対して資格者は7人

36歳から40歳までは職員数8人に対して資格者は4人

31歳から35歳では職員数24人に対して資格者は13人

26歳から30歳では職員数27人に対して資格者は5人

26歳以下では職員数7に対して資格者はゼロ人